

平成 29 年度 舗装診断士資格試験

GET^{ゲット}研究所 解答速報 (試案)

択一試験 正解・ポイント解説

問	正解	ポイント解説
1	(1)	コンクリート舗装が道路総延長に占める割合は、 6.3%程度 である。
2	(2)	行政事務は、 複数年度 にわたって外部委託(包括的性能発注)することができる。
3	(1)	供用後間もない舗装の軽度のひび割れでは、 予防的維持工法 を優先的に実施する。
4	(1)	メンテナンスに係る ライフサイクルコスト を中長期的に 縮小・平準化 する。
5	(3)	ISO55000 は アセットマネジメント 、ISO14000 が 環境マネジメント である。
6	(3)	分類 C では、表層ではなく 路盤 の保護を目的とした路面管理を実施する。
7	(3)	最も求められるアウトプットは、 メンテナンスサイクルの構築 である。
8	(4)	車両走行費用と時間損失費用は、 道路利用者費用 である。
9	(2)	FWD によるたわみ量測定は、性能指標の値を 間接的に 測定・確認する方法である。
10	(1)	疲労破壊によるひび割れは、車輪通過位置の 横断方向 の線状ひび割れである。
11	(2)	輪荷重と接地圧の荷重条件は、A 法では 0.59MPa、B 法では 0.63MPa と 異なる 。
12	(2)	骨材飛散が進むと、 空隙づまり となり、 排水性能 を低下させることがある。
13	(3)	アスファルト舗装の わだち掘れ の詳細調査では、 コア採取 が必須となる。
14	(2)	TS によるノンプリズム方式では、出来形は測定できるが、 締固め度は分からない 。
15	(4)	国際ラフネス指数は、 縦断 プロフィールメータによる方法などで算出する。
16	(2)	平坦性の測定結果からは、表層の凹凸は分かるが、 表層・基層の変形は分からない 。
17	(3)	診断区分Ⅲ-1 は、表層の供用年数が使用目標年数を 超える 場合の区分である。
18	(3)	アスファルト 混合物粒度の不良 は、ブリージング現象の発生要因にはならない。
19	(1)	亀甲状ひび割れの要因は、目地構造の機能不全ではなく、 路盤の軟化 である。
20	(3)	アスファルト混合物の流動によるわだち掘れは、 構造破損 である。
21	(1)	荷重伝達率は、 ひび割れ部を挟んだ点 において、FWD のたわみ量から評価する。
22	(3)	過積載を防止 することは、舗装の調査における安全・衛生管理とは無関係である。
23	(4)	公共工事入札契約適正化法は、建設副産物ではなく 請負契約 に関する法令である。
24	(3)	骨材飛散抵抗性は、 安全な交通の確保 に関係している。
25	(2)	必須の舗装の性能指標は、路肩やバス停などでは 設定しなくてよい 。
26	(3)	地下水の涵養のための対策技術は、排水性舗装ではなく 透水性舗装 である。
27	(2)	1車線あたりの日交通量を舗装計画交通量とするのは、 2以下 の車線の道路である。
28	(1)	すべり抵抗性と浸透水量 は、必ず設定する路面の性能指標ではない。
29	(1)	1方向2車線以下の道路では、 大型自動車の100% が1車線を通すものとする。
30	(4)	鋼床版舗装の基層には、 グースアスファルト混合物 を使用する。
31	(2)	摩耗抵抗性が求められる舗装は、遮熱性舗装ではなく 細粒度混合物舗装 とする。
32	(4)	アスファルト混合物によるオーバーレイ工法では、 係数 C 値 を用いない。
33	(2)	都市内区画道路では、排水性舗装ではなく 透水性舗装 を用いて地下水を涵養する。

択一試験 正解・ポイント解説		
問	正解	ポイント解説
34	(3)	道路排水施設では、雨水はなるべく 分散 させて排水する。
35	(1)	コンクリート版上のアスファルト混合物のオーバーレイ厚さは、 8cm 以上 とする。
36	(4)	直ちに補修する 。(常温混合物で埋め戻し、早急に既設材料と同じもので補修)
37	(4)	マイクロサーフェッシング工法は、 締固めを行わず に敷き均すだけの工法である。
38	(2)	予防的維持工法である表面処理工法は、構造的な補強工法としては 用いられない 。
39	(3)	寒冷地域の摩耗抵抗性が高い混合物でも、75 μ m ふるい通過量の比率は 減じない 。
40	(1)	粗骨材最大粒径が 大きい ものほど、耐流動性・すべり抵抗性に優れている。
41	(1)	アスファルト混合物は、 山にならないよう平均的に 積み込む。
42	(2)	排水性トップコートには、樹脂系材料のみを使用し、 硬質骨材は使用しない 。
43	(3)	ダンプトラックでは 1時間以内 、アジテータトラックでは 1.5時間以内 に運搬する。
44	(3)	この記述は、グルーピング工法ではなく バーステッチ工法 の説明である。
45	(2)	薄層オーバーレイ工法では、表層全面にタックコートを 施す 。
46	(4)	コンクリート版表面の骨材が磨耗するポリッシングは、 表面処理工法 で補修する。
47	(3)	タイヤローラによる締固めでは、転圧温度が高すぎると、 空隙つぶれ が発生する。
48	(1)	排出事業者としての建設廃棄物の処理責任は、 すべて元請業者が負う 。
49	(1)	事業の依頼者の利益ではなく、 発注者の保護 を最優先としなければならない。
50	(4)	業務上知り得た情報は、 独自調査情報の有無に関係なく 、漏らしてはならない。

記述試験 解答例					
問 2.	(1)	構造調査の目的			
		舗装の構造的破損の原因を特定するため。			
		構造調査の方法	舗装の診断に利用する項目と内容		
		① FWD たわみ測定	i	舗装の支持力	
			ii	路床の支持力	
		② 開削調査	i	舗装の変形状況やひび割れ深さ	
			ii	路床や路盤のレジリエントモジュラス	
		(2)	①	路盤	
			②	使用目標年数	
			注意して点検する部位	コンクリート版の目地部	
	損傷形態		①	目地部の破損	
			②	目地隣接コンクリート版のひび割れ	
	(3)	リフレクションクラック抑制対策			
①		砕石マスチック舗装の施工			
②		マスチックシールの設置			

記述試験は、問 1 と問 2 が必須問題で、問 3・問 4・問 5 が選択問題（1 問を選択）です。
記述試験のうち、論文形式である問 1・問 3・問 4・問 5 の解答は、省略させていただきます。